

第459空輸中隊、搜索救難力を磨く *459th AS sharpens thier SAR capabilities*

June 9, 2019

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)6月4日、UH-1Nイロコイのローターを点検する第459空輸中隊運用部長マヒュー・シムズ少佐。シムズ少佐は、今回の演習任務で副操縦士を務めた。

クルーは、飛行任務があるごとに航空機の機器類に異常がないかを確かめる。



1

(写真2)総合軍事演習場富士駐屯地で暗視ゴーグルを使って目視確認を行う第459空輸中隊UH-1N副操縦士マヒュー・シムズ少佐。同中隊の隊員たちは地域の緊急事態発生時に備え、定期的に空輸能力の演習を行っている。

訓練で隊員たちは暗視ゴーグルを装着し、ホイストを使った吊り上げ、吊り下げの訓練を行った。特殊任務の飛行士は救助のためのホイスト・オペレーターとして任務し、キャビン室に常駐し人と物資を守る。そして適宜、各種のチェックリストを確認し、操縦士が航空機に集中できるようにする。



2

(写真3)総合軍事演習場富士駐屯地での夜間訓練で、UH-1Nイロコイにホイストで吊り上げられる第459空輸中隊ダニエル・カー中尉。

第459空輸中隊は、将来起こりうる実際の有事に備えて、さまざまなシナリオをもとに頻繁に訓練を行っている。



3